

ホームページへの掲載	
済	令和元年6月28日 掲載

岐阜県立関特別支援学校

学校長 和田 俊人
学校住所 関市桐ヶ丘一丁目2番地 電話 0575-22-4238

- 1 会議の名称** 岐阜県立関特別支援学校 学校評議員会 (第1回)
- 2 会議の構成**
- | | | |
|-----|---|--|
| 委員 | 梅村 美紀
大竹 幸雄
澤井 基光
ダーリンプル 規子
森藤 由幸 | Man to Man Animo株式会社マネージャー
NPO法人おあぞら会理事
関市社会福祉協議会会長
中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授
くらしまちづくり協議会副会長 |
| 学校側 | 和田 俊人
澤田 章
杉本 雅晴
佐藤 知子
田中久仁子
堀 英男
井上 真典
旭 秀織 | 校長
PTA会長
教頭
事務部長
小学部主事
中学部主事
高等部主事
教務主任 |
- 3 会議の目的** 学校運営について地域住民や学識経験者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた活力ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催** 令和元年6月17日(月) 10:00~12:00 岐阜県立関特別支援学校小会議室
委員4人と学校側8人が出席
＜会の主な流れ＞
・学校長挨拶及び自己紹介
・学校概要の説明
・授業参観及び校内施設見学
・学校運営の説明
・各部運営の説明：小学部・中学部・高等部・舎務部
・高等部作業製品販売価格の検討
・当校へのご意見
・学校長挨拶

5 会議の概要

・学校長挨拶

本年度は、5名の評議員のうち4名が新規の評議員となってみえます。また、本年度より岐阜県教育委員会より委嘱状が発行されないとのことで、本資料の配布をもって委嘱にかえさせていただきます。来年度4月末日までの任期の間、ご指導ご助言をお願いいたします。

(1) 学校の運営について

◇全教職員が、「明るく・楽しく・元気」に協働し、「チーム関特支」として教育目標の具現に徹する活力ある学校経営をする。

◎児童生徒の「命」と「人権」と「学ぶ権利」を守り抜き、安心・安全で愛情に満ちあふれた楽しい学びの場を実現する。

⇒教員は、人権感覚を磨いていくことが大事であることを、4月の職員会議で話し周知している。

◎学校ホームページを充実し、保護者や地域へ当校の取り組みを発信するとともに、地域の関係機関との連携を深め、肢体不自由や病弱のある児童生徒の教育ニーズを的確に把握し、ネットワークづくりを行う。

○校外学習時における医療的ケアの安心・安全な実施について、モデル的な取り組みを行い、実践を重ねてその知見を深める。

⇒これまでは、校外活動時は保護者の付き添いが必要であったが、本年度、校外活動(泊を伴う活動含む)において看護講師が医療的ケア看護専門職として付添い、そのケアを行うことができるようにするためのモデル事業指定校になっている。

○働き方改革プラン2019に基づいて、学校業務の見直しを継続的に行い、教職員におけるライフワークバランスの充実を図る。

⇒県の目標として、各教職員の残業時間月80時間以上をなくすことに取り組んでおり、業務の見直し、行事の精選なども進めていきたいと考えている。

○教職員が自ら学び続ける意識をもち、「岐阜県教員育成指標」に基づいて、特別支援教育の専門性と高い人権意識を身に付けた人材を育成する。(◇は重点目標、◎は本年度の重点項目)

(2) 各部の運営について

①小学部

<重点>

- ・児童や保護者のニーズを踏まえた「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、関係者間で共通理解と連携を図りながら、一人一人に応じたきめ細かな指導・支援を推進する。
- ・家庭及び医療機関等と連携して健康管理を図り、健康で安心・安全な学校生活作りを推進する。
- ・体験的な学習や交流学习等を通して、自らの力を十分に発揮して、生き生きと活動する児童を育てる。

②中学部

<重点>

- ・「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、関係者が生徒一人一人の発達課題や学習課題を明確にした支援・指導を推進する。
- ・関係者における共通理解と共通認識を図り、健康で安全な教育環境の整備を推進する。
- ・様々な体験活動を通して、将来の社会参加、社会自立に向けた進路教育を推進する。

③高等部

<重点>

- ・豊かな心をもち、自ら学び、主体的に行動する生徒を育成する。
- ・日常的な健康管理や医療的ケアをもとに、健康保持に配慮した個別支援・指導を推進する。
- ・各種の社会体験等を通じ、自己理解を深め、社会参加を目指した実践力を養成する。

④寄宿舎

<重点>

- ・自分で考え、主体的に行動できる自立心を育成する。
- ・心身ともに健康で、安心かつ快適な寄宿舎生活を支援する。
- ・互いに認め合い、協力できる態度を育成する。

【質疑】

意見1 各部の説明については、よく分かった。建物も立派でよい。寄宿舎についての避難訓練はどれくらい行っているのか。回数について伺いたい。

学校 授業時間帯に各学期1回、寄宿舎でも各学期1回は命を守る訓練を行っている。そのため、寄宿舎生は合わせて6回行うことになる。深夜や早朝の実施は、生徒の健康面や安全面を考えると実施が困難なため、下校後の夕方に深夜や早朝の時間を想定して行っている。

(3) 高等部作業製品の販売価格について

- 意見1 何名ぐらいの生徒で作っているか。また、どこで販売しているのか。
学校 教育課程C類型（知的代替の教育課程）及び教育課程D類型（自立活動を主とした教育課程）の生徒14が、紙すきコースと陶芸コースの作業班に分かれて行っている。販売については、当校の学校祭、F C岐阜と打ち合わせて販売を行っている。
- 意見2 どこで販売するかが課題となってくる。岐阜県立ひまわりの丘の夏祭りで販売の協力ができればしていきたい。また、ネット販売も考えてはどうか。
学校 生徒数も最大時の3分の1に減少し、作業製品の数や量も減るなか、今後はどのような作業製品を作り、それをどのように販売するのが課題になっている。
- 意見3 生徒数も減り、病弱の生徒が増えている。生徒数の減少を逆に強みと捉え、作業に代わるこの施設を生かした活動等、アイデアを出しながら地域に広げていくとよい。
- 意見4 学校祭において、作業製品は全て売り切っているのか。
学校 ほぼ、全て売れている。材料は県費で購入し、売り上げは県に納入することとなっている。売り上げが多いとその実績に基づき、次年度の備品等予算令達が多くなる。
- 意見5 価格は学校独自で決めてよいのか。県は関与していないのか。作っている生徒が販売し、返ってくるものがないのは如何なものか。社会参加・社会自立を目指すなかで、こういったシステムはどうか。事業所では、一人一人に給料を出している。それを目標として、楽しみにしている人も多い。
学校 還元しないという訳ではない。学校備品という形で学校全体として還元されている。ただ、生徒がその売り上げを使用して、ジュースやケーキを買うことはできないが、保護者からお預かりしている学校預り金を活用し、その努力をお互いが認めあえる学習機会を、作業学習以外の生活単元学習等の授業において実施している。
- 意見6 販売価格については、作った本人が決めるのがよい。
学校 食物等の場合、近隣の企業との兼ね合いで決めていかななくてはならない場合がある。喫茶店等を行っている学校も、そのバランス考えて調整しつつ販売できている。
学校 作った本人の意見も聞きながら、値段を考えていきたい。売り上げを個に返すという観点について、関係機関とさらに検討を重ねながらよりよい状況を考えていきたい。

(4) 当校へのご意見について

- 意見1 企業側からの意見としては、中学部・高等部において、将来を見据えた支援ということで、採用する側としてのお願いがある。準ずる教育を受けてきた肢体不自由のある生徒は、特色に薄さを感じる。例えば、早い段階から「ICTで生きていく」といった目標をもち、ICT機器に早期から接していけると人生での武器となり闘っていける。ICT関係においては、在宅就業分野に健常者のエンジニアが入ってきている。ソフトも進み、高度なスキルが必要である。このような点に目を向けていただくとありがたい。
- 意見2 働き方改革の資料を見て、先生方は大変だと思った。時間外手当が出ないということであれば、自分達で何とかしなくてはならない。「書類は簡潔」、「会議も簡潔」と明記してある。学校からの様々な書類で、その必要性に首をかしげるものもある。移行支援会議等の資料ももう少し簡潔になるのではないかと。時間外勤務が多いこともあり、簡潔化について考えて欲しい。そして、プライベートの時間も、しっかりもてるような意識改革が必要である。
学校 教師は作るのは得意でも、捨てるのが苦手で、無駄が多い。何を捨捨選択していくのかをさらに考えていくとともに、管理職自らがそれを率先していきたいと考えている。
- 意見3 全学部の授業を参観し、児童生徒の表情もよく、豊かでこちらまで笑顔になった。このように表情豊かで自分らしくいられるのは、教師が児童生徒の好奇心や意欲を十分に出している環境をつくっているからだとよく分かった。「自分が自分らしく」「命を守る」「学ぶこと」等の人権教育の大切さを感じた。この学校は、小学部・中学部・高等部と生涯教育の観点をもって児童生徒をみていける。特に、高等部では自分の得意とする分野を極めていけるのではなか。また、それが自己肯定感にもつながると考える。

意見4 この地域にあるよい学校だと思う。どの学部も生きる力、自立に向けて取り組んでいる。今後も、学部間のつながりを大切に、卒業後は誰につないでいくのか、親なき後に自活していかななくてはならない事柄を念頭におき、そこに力を入れて取り組んでほしい。

6 会議のまとめ

ご意見を頂く時間をもっとたくさんとれるとよかった。また、何かありましたら学校評価のアンケートにもご記入ください。今日伺ったご意見を参考にしながら学校経営に生かしていきたい。

※今回の学校評議員会の内容について、岐阜県教育委員会への報告並びに当校ホームページへの掲載に関して全出席者より了解を得た。